

参加プログラム：ディーキン大学

参加時の学年：1 年生 学部：社会 学科：社会

今回のオーストラリア留学の目的は、英語力の向上と異文化交流・理解の深化であった。特に、日常生活の中で実際に英語を使うことで、リスニング力やスピーキング力を鍛え、より自然な表現を身につけることを目指した。また、異文化の環境に身を置くことで、日本とは異なる価値観や生活スタイルを体験し視野を広げることのひとつの目的であった。



ホームステイ先ではホストファミリーと日々の会話を楽しみながら生活した。食事を一緒に食べることは少なかったものの、それ以外の交流できる時間に自分の家族のことやその日にしたことなどを話した。ホストファミリーとの会話を通じて英語の表現や発音を学ぶ機会も多かった。また、現地の大学の付属語学学校に通い、さまざまな国の留学生とともに英語を学んだ。授業ではディスカッションやペアワーク・グループワークの時間が多く、自分の意見を英語で伝えることに慣れることができた。クラスは日本人の生徒が多かったため、とても心強かった。学校終わりや休日には、メルボルンの観光名所を訪れたり、現地のカフェやマーケットを巡ったりした。

最も印象に残ったのは、現地の人々のフレンドリーさと多文化共生の雰囲気である。メルボルンは多様なバックグラウンドを持つ人々がともに暮らす都市であり、それぞれの文化が尊重されていることを強く感じた。例えば、私のホストファミリーはレバノン出身で若いときにオーストラリアに移住してきていたり、クラスにはイスラム教の生徒もいたため、お祈りのために授業に遅れてくることもあった。また、レストランやカフェなどのお店で聞かれる「How are you?」といった何気ない挨拶や、バスの運転手や近所の人が私たちに「Have a lovely day!」と声をかけてくれることがとても新鮮だった。また、ホストファミリーとの会話や生活を通じて、日本とは異なる価値観を学ぶ機会も多かった。一緒に出かける機会はなかったが、家族や友人との時間を大切にしている印象が強かった。さらに食文化の違いも興味深かった。普段は一緒に食事をする時間がなかったが、週に 1 回、成人している娘さん息子さんが家に来て家族全員で夕食を食べた。庭で一緒にバーベキューを楽しんだ時間は忘れられない思い出となった。

この留学を通じて、英語でのコミュニケーション力が向上したことを実感している。特に、自信を持って話すことができるようになった点は大きな成長である。最初は聞き取れなかったフレーズやスピードの速い会話も次第に慣れていき、リスニング力が大きく伸びたと感じた。また、自分から積極的に話しかける姿勢が身につき、異文化の人々と交流することの楽しさを知ることができた。さらに、日本とは異なる価値観や生活スタイルを直接体験したことで、柔軟な思考ができるようになったと感じる。例えば、現地の人々がワークライフバランスを大切に、リラックスした時間を持つことを重視していることは人生の豊かさについて考えさせられた。また、異文化の中で生活することで、適応力や問題解決能力も向上した。最初は食事や生活リズムの違いに戸惑うこともあったが、徐々に柔軟に対応できるようになり、新しい環境でも前向きに適應する力が身についた。

今回の経験を活かし、さらに英語力を向上させることを目標にしたい。特に、日常会話だけでなく、TOEIC などの資格で高得点を獲得できるレベルを目指したいと考えている。また、多文化共生の大切さを学んだことで、日本においても異文化理解を深める活動に積極的に参加したいと考えている。例えば、留学生支援のボランティア活動や異文化交流イベントの参加などである。加えて、今回の留学で感じた「挑戦することの大切さ」を忘れずに、今後も新しい環境に積極的に飛び込んでいきたい。留学前は不安もあったが、実際に挑戦してみると得られるものが多かった。これからも自分の可能性を広げるために、新たなチャレンジを続けていきたい。この 1 か月間の留学は、多くの学びと成長の機会を与えてくれた。今後もこの経験を大切にしながら自分自身の成長に繋げていきたい。

